

ヨーロッパの迷信とことわざ

—— ヨーロッパ人をより深く理解する助けとして

短い語句の中に、その国や地域の歴史、経験、学びが凝縮されている迷信やことわざ。人々の感じ方や考え方の規範になっている。

清水穂高

相手国の文化を理解する

国際的に仕事をすることは益も多い一方、苦勞も少なくない。海外の企業やパートナーとのデイリーや折々のビジネスのみならず、現地で事業所、工場を運営する場合には、かなりの困難に遭遇することもある。立ち上げ期など、目標が共有できている場合は協力し合えたとしても、巡航状態になり始めると認識の差が顕在化したりする。既存ビジネスを買収した場合には、旧来の手法にこだわる現地従業員との間に軋轢あつれきが生じ、立往生することもあるだろう。

臨床心理学者の河合隼雄かわい はやお氏が、「男と女は協力し合えるが、理解はできない」という趣旨のことをどこかで書いていた。異文化の国の人々とのビジネスはこれに似たところがある。しかし、「何とかうまくやっつけていこう、ぜひそうしたい」と願うならば100%は理解できないまでも、少しでも相手の考え方、感じ方を理解する努力を続けるのが夫婦円満ひげつの秘訣であり、海外ビジネスを維持するための基本でもあることは疑いがない。

海外ビジネスパートナーの考え方、感じ方を理解する。それには相手側の個人的資質、性向、背景、狙いを理解することが初めの第一歩だ。さらに一段掘り下げて、相手の考え方や感じ方のベースとなっていることが多い、相手国の文化を理解することが次の段階となろう。本文で

取り上げる「迷信、ことわざ」は典型的な文化の1つである。短い語句の中に、その国や地域の歴史、経験、学びが凝縮されている。その国で育つ人は、子どもの頃からそれを聞かされ、無意識に感じ方や考え方の規範となっていく。

もしそうならば、契約交渉で行き詰まった時、業務運営での対立がデッドロックに陥った時、チームを励ましたい時、現地の部下との意思疎通そつうに齟齬そごが生じるようになった時、その解決に役立ちそうな相手国のことわざをふと口にする、冷えた関係がずっと氷解するかもしれない。

ほんの小さな知識で大きな効果

そんなことも期待しながら、ヨーロッパのことわざをいくつか挙げてみる。これらを使えそうなビジネスシーンを思い浮かべてイメージトレーニングをするのも面白い。

- 冒険せずに得られるものはない〈北欧全般〉
- 卵を割らないでオムレツは作れない〈フランス〉
- 前進しない者は後退することになる〈フランス〉
- A(アー)と言うならB(ベー)も言わねばならない〈ドイツ〉：始めたのなら続けよ
- 屋根の上の鳩より、手の中のスズメの方が良い〈ドイツ〉
- 馬の前に荷車を置くな〈英国、イタリア〉：順序を間違えるな

